

第 11 回斜面工学研究小委員会 議事録

日時：平成 28 年 9 月 27 日（火）14：00～17：30

場所：主婦会館プラザエフ 3階会議室（土木学会役員会議室が使えなくなったため）

出席者（敬称略）：15名

荒木、衛藤、上野、美馬、大野、中野、藤井、宇次原、原、稲垣、櫻井、吉川、築瀬、瀬戸、鈴木

報告事項

1. 前回議事録の確認

鈴木委員長より、前回委員会の議事録について報告がなされた。

2. 地盤工学委員会報告

鈴木委員長より、9月7日に開催された地盤工学委員会の議事録の報告がなされた。

斜面工学研究小委員会の活動予算：13万円（多少超えても良い）。

土木学会として出版を奨励している（ただし赤字図書は×）。

会長特別タスクフォース「現場イノベーションプロジェクト」についての話題提供。

3. 熊本地震関連

土木学会全国大会 特別セッション「熊本地震報告会」にて鈴木委員長が、斜面工学研究小委員会として「熊本地震における斜面災害と今後」というタイトルで発表。

土木学会誌 2016年7月号の「平成28年熊本地震 地震被害調査速報」に、地盤工学委員会 調査団長として鈴木委員長が調査速報掲載。

<http://jsce.or.jp/journal/jikosaigai/201607.pdf>

4. 国川（こくがわ）地すべり報告

整理が遅れていたが、報告内容について紹介。

5. その他

①土木学会より、経理処理についてのお願い。

行事終了後3カ月以内に、行事報告と経理処理を行うこと。

②鹿島財団の研究募集は10月14日締切

③土木学会出版本は3年度連続で資産価値なしとなったものは、無料贈呈の仕組みがある。

④築瀬委員より、ネクスコ総研発行の「エコロードガイド」の紹介あり。----- 資料-1

⑤宇次原委員より、冊子「文化遺産防災のための斜面評価・対策事例集」が出席委員に配布。

⑥稲垣委員より、以下のお知らせがあった。

「防災・環境・維持管理と地形地質講習会」のお知らせ（9月30日開催）----- 資料-2

「法律家・消費者のための住宅地盤Q&A」という書籍の紹介----- 資料-3

「応用理学部会創立15周年記念シンポジウム」のお知らせ----- 資料-4

審議事項：

1. 書籍販売促進

①販売状況 資料-5 で販売状況の説明（藤井委員）

2016年8月31日で1260冊（1年経過）。過去例から1500冊が目標値。最終目標は3000冊。

②販売戦略1→学校図書館

全国に3万校ある小中学校の図書館で購入してもらえると、普及する。

現在美馬委員の方で、学校図書館協議会選定図書となるようにアクションしている最中。

③販売戦略2→ダイレクトメールDM作戦

築瀬委員より、ネクスコ総研発行の「エコロードガイド」販売においては、DMを用いて販売促進を行ったとの報告。

●DMの形態

封筒は土木学会、学会作成の紹介パンフ+内容がわかるパンフ

●DMの送付先

各県砂防課・各県出先事務所砂防系、砂防ボランティア協会、市町村の防災部署、メンテナンスエキスパート講座卒業者、測量設計業協会、地質調査業協会、建設業協会

●費用：斜面工学小委員会で費用負担

④チーム防災ジャパン→再度連絡をしてみる。東京学芸大学の先生が運営に関わっている。

⑤日本防災士会→日本防災機構→図書選定

瀬戸先生情報：定期的に郵便を送ってきている。→瀬戸先生から確認してもらう。

2. 防災展 2017

2017年3月8日9日に新宿西口広場で開催。等委員会として参加する。

参加可能な人の協力を求める。藤井委員の方で、連絡を行う。

3. 熊本地震被害調査と報告書作成

①益城町からのお願い事項連絡

防災学術連携体を通して益城町から連絡。地震調査の際は活断層学会を窓口として益城町に事前申請が必要（調査を拒否するものではない）。

②斜面工学小委員会として熊本地震の継続調査を行うか？

→行うことに決定。雨の後の被害拡大がテーマ。鈴木委員長が段取りを行う。

③継続調査の成果報告は、当委員会のHPでUPすることで了承。

④委員会メンバーが個人として行った成果についてどうするか？

→当委員会として成果報告としてHP等で成果公開を行う。

⑤稲垣委員の現場調査成果について、紹介があった。

4. 本委員会の存続について

①参加各委員より存続についての意見収集。

②その結果、全員一致で、存続を支持。

③来季（3期）委員長に、現鈴木委員長を推薦。

●話題提供：「土構造物（補強土）の地震被害」と題して話題提供いただいた。

発表：ヒロセ（株）志村直紀氏、（岡三リビック（株）中村真司氏も同席）

以上